

ネコとのふれあい活動における行動調査

目的

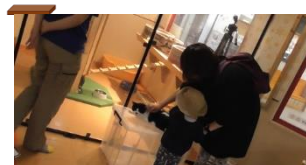
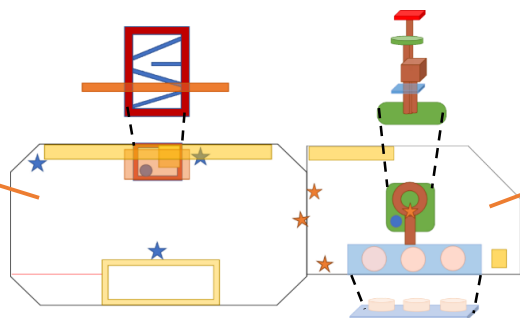
本研究では、ネコ本来の行動に寄り添ったふれあい活動中のネコの行動やストレスを調査すること、さらに混雑日および閑散日といった状況が異なることがネコに与える影響を探ることを目的とし、2019年4月30日より6月28日までの期間において行動観察とストレス評価を行った。

対象個体

| 名前 | 写真 | 品種 | 推定年齢 | きまぐれタイム |
|----|---|----|------|---------|
| パン |  | 雑種 | 9歳 | 参加 |
| ミー |  | 雑種 | 9歳 | 参加 |
| ゲン |  | 雑種 | 9歳 | 引退 |

調査方法

〈実験場所〉



〈評価方法〉

ネコの行動比較は、
休息行動・身繕い行動などの「**個体維持行動**」
相手個体の確認・親和の行動からなる「**社会行動**」
の出現割合により評価した。

ストレスは、Cat-Stress-Score(CSS)を使用し評価した。



CSSとは、猫のストレス状態を姿勢と行動要素にもとづいて、7段階のスコアで評価する方法で、スコアが低いほうがリラックスしているとなるように得点をつける手法である

結果と考察

- ◆ いずれのネコにおいても混雑状況にかかわらず、ストレス負荷はほとんどないことが示された
- ◆ ネコ達が長い時間この環境で生活しており、ネコが自らふれあいの場に出てくる条件下でのみふれあいが可能であること、さらに、担当スタッフが限られていることで順応したと推測される
- ◆ 親和的行動もみられるため、全体としてポジティブな感情で触れ合っているといえる
- ◆ ふれあい活動が行われる時間については、食事直後の午前は横臥姿勢で休息がみられることから、どちらかというとな後のほうが望ましい傾向にあることが示唆された